

新保の誇り

～インクルーシブひろばchangeプロジェクト～

ごあいさつ

富山市立新保小学校の校区には、富山県空港スポーツ緑地インクルーシブひろばがあります。ここでは、インクルーシブ(=英語で、すべてを含むという意味)の考え方を取り入れた遊具やトイレが設置され、年れいや障がいの有無などに関係なく、だれでも共に利用できる遊び場です。

新保小学校では、児童が「みんなが安心して楽しく遊べるように。」と願いを込めて、インクルーシブ子ども宣言を作成しました。そして、ひろばのオープン(令和5年3月)に合わせて、子ども宣言の看板をひろばに設置し、利用する方にメッセージを届け続けています。

オープンしてから2年後、公園の管理者が新保小学校を訪れました。「まだインクルーシブにはなっていない。もっと良くしたいので、いつも遊んでいる地域の子どもに手伝ってほしい。」と話し、新保小学校に協力をお願いしました。

令和7年5月、5年生の総合的な学習の時間で「新保の誇り～インクルーシブひろばchangeプロジェクト～」がスタートしました。5年生が学び、一生けん命に取り組んだ活動をご紹介します。



キャラクター『心優(ここあ)』

このキャラクターは児童がインクルーシブひろばのキャラクターとして考案し、デザイナーが完成させました。

「公園とインクルーシブ」富山県空港スポーツ緑地所長 長谷川

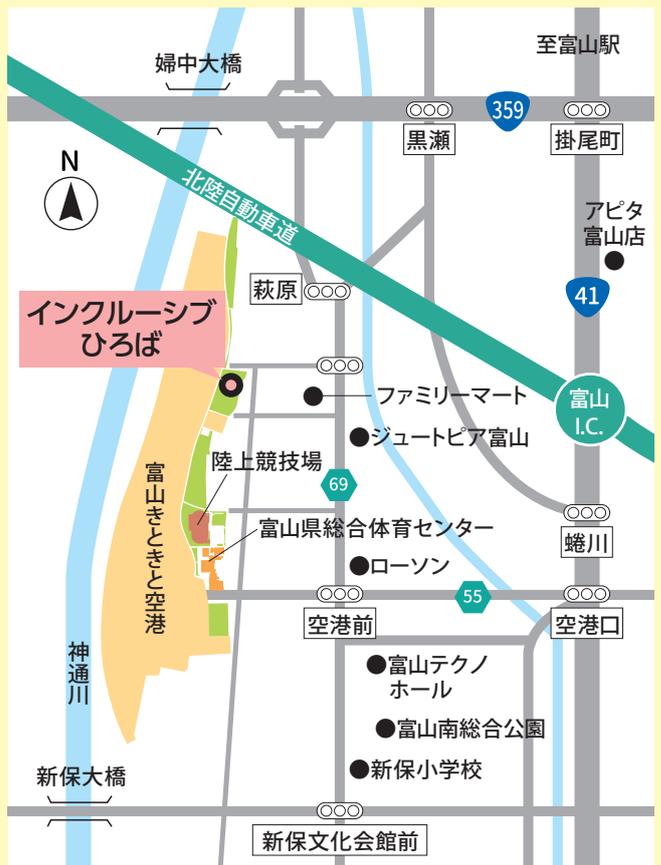
全国の公園で、インクルーシブ遊具の設置やバリアフリー化が進められています。とても素晴らしく大切なことですが、それだけで本当に公園がインクルーシブになるのでしょうか？以前、公園でアンケートを取りましたが、このような声が寄せられました。「インクルーシブの考え方を進めるのであれば、障がいの理解にもっと力を入れなくてはならない。」「順番や交代を理解できない子どもがいることをもっと知ってほしい。」このことを児童に伝えると、初めは新しい遊具を考えるプロジェクトでしたが、遊具だけではなく、チラシやポスター、看板なども考えたいと提案してくれました。ここが大きなポイントです。遊具だけではなく、人の考え方や行動も同時に変えていくこと、心のバリアフリーを進めていくことが重要なのです。大人でもむずかしいこのプロジェクト、5年生のみなさんがとてもがんばっています。この取り組みが、この公園だけではなく、富山県さらには全国を変える大きな一歩になることを期待しています。



インクルーシブひろば



インクルーシブ子ども宣言



インクルーシブひろばの位置

公園管理者のお話

インクルーシブひろばにどのような工夫や思いがこめられているかを知りたいと思い、公園へ訪れたり、公園管理者の方から遊具に込められた意図をうかがいました。その結果、「遊具は、障がいのある方や小さな子どもにも、自分に合う遊び方や楽しみ方ができるように工夫されている。」と知りました。この考えを大切にしながら、「だれもが安心して、楽しく、遊べる工夫を取り入れた遊具」を提案し、インクルーシブな公園の実現につなげたいと考えました。



障がいについてのお話

たくさんのゲストティーチャーの方と出会い、多くのことを学びました。支えん者や支えん団体、保護者の方のお話からは、発達や特性に差があり、障がいの内容も一人一人ちがうということを学びました。また、見た目にはわからない障がいや病気のあることや、障がいのある方でも、工夫すれば、いっしょに楽しめることがあることに気付くことができました。



身体障がいの疑似体験

インクルーシブの学習で障がいのある方のことをもっと知りたいと思い、車いす体験と視覚障がいの疑似体験をしました。その学びを遊具づくりに生かしたり、インクルーシブへの理解を深める機会にしたりすることができました。体験から感じたことも多く、車いすが通れるはばや高さを考えたり、視覚に障がいのある方も楽しめる音が出る遊具を考えたりできました。



ワークショップ

もっとたくさんの人にインクルーシブひろばに来てほしいと思い、新しい遊具を提案しました。10チームに分かれ、話し合いを重ね、よりよい遊具について真剣に考えました。キーワードは「一人一人が大切にしたい“みんな”を、みんなで大切にする。」です。一人一人が、だれかを想像しながら「インクルーシブとは何か」を考え続けました。体の不自由な方、国せきのちがう方など、どんな人にも来てもらえるようにアイデアを出し合い、世界に一つだけの遊具を提案しました。遊具だけではなく、チラシや看板、ポスターなどを使って、遊びに来た人も「インクルーシブ」を考えられる提案ができたと思います。



学習発表会

私たちは、総合的な学習の時間で学んだことを学習発表会で発表しました。新遊具の提案や「インクルーシブとは何か」という問いに向き合い続けた私たちの学びの姿を劇にしました。障がいや病気には、目に見えるものもあれば、目に見えないものもあります。そこで、障がいの有無や年れいなどに関係なく、みんなで助け合うことの大切さを込めた劇にしました。最初はインクルーシブについて学ぶ側でしたが、この劇を発表したことで、インクルーシブについて伝える側になれた気がしています。



令和8年秋にオープン予定

富山県空港スポーツ緑地 インクルーシブひろばに新しい遊具ができるよ!

①レインガードチームは、もし急に雨が降ってきても、雨にあたる心配がないように屋根を考えました。面白い見た目なので、形を見て楽しむこともできます。

②ゆかりチームは、遊具のゆか材を考えましたが、いろいろな人のことを想像して考えるのは難しかったです。転んだとしてもあまり痛くない人工しばにしました。

③楽しく遊べるすべり台チームは、インクルーシブなすべり台を目指しました。いろいろな種類があるので、待ち時間が少なく、自分に合ったすべり台を選べます。

④アスレチックチームは、小さい子から小学校高学年まで楽しめることを考えました。いろいろな高さやはばがあるので、自分に合った遊び方ができます。

⑤ボルダリング登るぜチームは、小さい子や体が不自由で手足を動かしていく人でもチャレンジできることを考えました。ゴツゴツしているので感覚遊びも楽しめます。

⑥楽しさびようどうトランポリンチームは、インクルーシブへの願いをこめて、どんな人でも遊べるトランポリンを考えました。車いすの人でも遊ぶことができます。

みんなの思いがこめられた遊具になりました!



世界にたった1つのじまんの遊具です。

インクルーシブへの理解を深めよう!

看板理解チームは、「インクルーシブ」について考え、「みんなちがって みんないい」という詩にまとめました。看板の詩を読んで「インクルーシブ」についてみんなが考えてくれるきっかけになればうれしいです。

ポスターチームのデザインしたポスターのテーマは「みんなちがって みんないい」です。大きな文字でメッセージを書き、イラストをつけ、いろいろな人に伝わるように工夫しました。ひろばでたくさんの人に見て欲しいです。

チラシずしチームは、チラシにのせる文章を各チームにお願いしてまとめ、チラシの原こうやキャラクターを作りました。このチラシを読んだ人が、私たちの学びや「インクルーシブ」を知り、考えるきっかけになればうれしいです。

点字・言語、気持ちチームは、点字や言語の看板を考えました。看板はクイズ形式なので楽しく覚えて欲しいです。また、自分の気持ちを伝えることが苦手な人が、指をさすだけで伝わる方法も考えています。



インクルーシブについて学んだ 私たちの感想

最初、インクルーシブが何かあまりわからなかったけれど、様々な人と出会い、理解が深まりました。そこから遊具を考え、ふつうだったらできないことを学べてすごく楽しかったです。これからもインクルーシブについて調べ続けたいと思います。

たくさんの関係者さんから話を聞き、学んでいくうちに自分の「インクルーシブとは」ができてきた気がします。遊具をゼロからつくることには不安も少しあったけれど、今は完成がとても楽しみです。

この学習を通して考えた遊具が完成するのが楽しみです。学ぼううちにだんだんと「インクルーシブとは何か」を深く考えることができました。ルールを守って遊んでくれるのか不安だけれど、今までより、インクルーシブなひろばになると嬉しいです。

「本当のインクルーシブとはどういうことなのか」について、最初の考えと今の考えが変わりました。学習を通してインクルーシブとは何かについて、考えが深まったと思います。これからもこのインクルーシブを続けられたらと思います。

インクルーシブについて、最初は知らなかったけれど、いろいろな人たちから聞いたお話や体験によって、インクルーシブとは「みんなが笑顔でいられること」だと考えられるようになりました。インクルーシブを今後、生活に取り入れていきたいです。



インクルーシブとは、共生や認め合うことと、辞書に書いてある通りだけだと思っていました。しかし、たくさんの人たちのお話や貴重な体験をして、インクルーシブの大切さと「自分自身が思うインクルーシブ」も分かった気がします。

最初はあまり興味のなかったインクルーシブという言葉だったけれど、いろいろな人と授業をして、知らなかったインクルーシブという言葉がとても大切な言葉だと感じることができました。

言葉だけであったインクルーシブを、このプロジェクトで学べて、すごく良い経験になりました。ふつうの授業では、関われない方々と学べてとてもよかったです。インクルーシブとは、「みんなが分けられることなく同じ」ということだと思います。

いろいろな方々にとても大事なことを教えてもらいました。最初は「インクルーシブとは？」から始めて、共生や仲間外れにしないなどと話していたけれど、何度も先生方のお話を聞いて、インクルーシブがどれだけ大切かが分かりました。

今までは、インクルーシブという言葉を手軽に使っていたけれど、この学習を通して、インクルーシブについて深く考えることができました。まだ、分からないこともあるから、調べ続けたいです。

小澤先生からのコメント

「インクルーシブとは何か……」ここから子供たちの学びは始まりました。「共生」「認め合い」等、子供たちが思いつく言葉は、どれも聞こえのよい言葉ばかりでした。しかし、プロジェクトが進むにつれ、子供たちの学ぶ姿に変化が現れました。

「車椅子の友達と一緒に遊ぶにはどうすればよいか」「小さな子供も安全に遊べるひろばにしたい」など対話を繰り返す中で、子供たちは自分とは異なる立場の「誰か」に、本気で想いを馳せるようになりました。理想を語るだけではなく、一人ひとりの『困り感』に寄り添い、どうすれば身体の動かし方や感じ方の違いを超えられ、どうすれば自然と笑顔になれる場所をつくることができるか、一生懸命に考え抜いたのです。

新遊具には、そんな子供たちが悩みながら導き出した、「インクルーシブとは何か」に対する答えが詰まっています。この学びは、遊具をつくって終わりではありません。多様な人々が混ざり合う社会を、自分たちの手でつくっていく第一歩です。インクルーシブひろばが、この遊具のように「誰もが心から笑顔になれる場所」となるよう願っています。

富山市立新保小学校 第五学年 担任 小澤 昭吾



校長先生からのコメント

インクルーシブひろばの遊具増設に、子供たちが参画してみよう富山県のほうから提案をいただきました。日本初の試みであること、自分たちのアイデアが詰まった世界でたった一つの遊具が設置されるということで、子供たちは皆、心躍らせたものです。

ただ、それ以上に驚いたことは、遊具を具現化していくその過程です。インクルーシブひろば会議委員をはじめとする多くの方々の協力を得て、子供たちは「インクルーシブ」とは何ぞやという問いをもち続け、議論を重ねてきました。さらには実際に障がいを抱えた方々と出会い、お話を聞かせていただいたり福祉体験をさせていただいたりしながら、自分たちの「インクルーシブ」に対する考えを深めていきました。

完成した遊具で遊ぶ際には、新保の子供たちのどんな思いが詰まっているのか感じながら楽しんでいただけたら幸いです。

富山市立新保小学校 校長 松村 英樹

